

# 社会学部

## 人材養成目的

社会学部は家族、職場、地域、国際社会に生起する生活、労働、コミュニケーション、人間形成の諸課題について、少人数教育を核とした議論と発表、文献研究、フィールドワーク、計量調査の学習をとおして、客観的で良識に基づく判断力、他者に共感し協力できる感受性、日々の努力を怠らない自制心、難題に向かう気概を身に付けて、企業、行政、マスコミ、福祉等の分野でなくてはならない人材を養成することを目的とする。



## CONTENTS

## 社会学部

§ 履修の要領	4
§ 成績評価と単位（GPA制度）	8
§ 開講科目一覧表の見方	10
§ 科目履修について（卒業要件、履修条件、学科別開講科目一覧）	
● 社会学科	11
● 社会福祉学科	27
● メディア学科	47
● 産業関係学科	59
● 教育文化学科	67
● 国際専修コース	83
● 免許・資格関係科目	
共通選択科目（免許資格に関する科目）	92
自由科目（免許資格に関する科目）	99
● 日本語・日本文化教育科目 ※留学生対象	103
外国語による科目の開講	110
● 副専攻制度	117
社会学部副専攻	118
サイエンスコミュニケーター養成副専攻	127
§ 同志社大学学則、学部一般内規	131
§ 外国留学に関する諸規程	144
§ 学業履修について（授業、試験、レポート、窓口受付時間、学業成績）	146
§ 資格について（社会調査士・社会福祉士・精神保健福祉士）	151
§ 父母会文庫・社会学部図書の利用について	158
§ 交通機関の不通と暴風警報・特別警報発表に伴う授業・試験の実施について（司法研究科以外）	159
§ 社会学部 専任教員名簿	161

# 履修の要領

## ●科目履修について

社会学部において学位を取得するためには、**4年以上在学**し、学科で定められたカリキュラムにしたがい、**卒業に必要な単位を修得**しなければなりません。卒業の要件を満たした場合、学科によって次の学位が授与されます。

社会学科…… 学士（社会学）

産業関係学科…… 学士（産業関係学）

社会福祉学科…… 学士（社会福祉学）

教育文化学科…… 学士（教育文化学）

メディア学科…… 学士（メディア学）

卒業に必要な科目と単位は学科により異なります。『履修要項』『シラバス』『登録要領』等の説明事項を熟読のうえ、学年始めの所定期間に、その年度に履修する科目の登録手続きをとってください。

## ●社会学部授業科目について

### ●必修科目／コア科目（教育文化学科 2018年度以降生）

学部共通必修科目（選択科目Ⅰ学部共通科目群）と学科それぞれの特色となる科目で構成され、専門知識を学ぶための柱となり、将来その専門性を発展させるための核となる科目群です。

### ●選択科目Ⅰ／メジャー科目（教育文化学科 2018年度以降生）

必修科目を骨格として、各学科の専門性を充実させるための関連科目群です。定められた条件の中で、各自の関心に応じて履修科目が選択できます。

### ●選択科目Ⅱ

専門分野を補完するための関連科目として、他の学問領域を学ぶ科目群です。人文・社会・自然の教養分野のみならず、学際科目、免許資格に関する科目、あるいは各種のスポーツ実技や健康管理の理論など、幅広く学ぶことができます。

また、他学部・他学科科目、同志社女子大学の提供する科目、大学コンソーシアム京都の提供する他大学の科目も履修することができます（他学部・他学科科目については当該学部・学科の「履修要項」を確認してください。その中で社会学部生が受講できるのは「社会学部授業時間割表」に記載されている科目に限ります）。

### ●選択科目Ⅲ

豊かな国際性を身に付けることを目的として、7カ国の外国語を用意しています。卒業単位に算入される科目や単位については、学科によって異なります。

### ●自由科目

**卒業に必要な単位として算入しない科目を自由科目**といいます。開講科目一覧表の「科目群」欄に「自由科目」と表示されている科目のほか、科目登録時に登録コードの種別欄に「Z」を付けて登録した科目も自由科目として扱われます。自由科目は**卒業単位やGPAには算入されません**。登録制限単位数には算入されますので注意してください。

社会学部が設置する自由科目は、次に説明する『免許・資格関係科目』として登録することで、各年次で定められた最高登録単位数とは別に登録することができます。

● 免許・資格関係科目

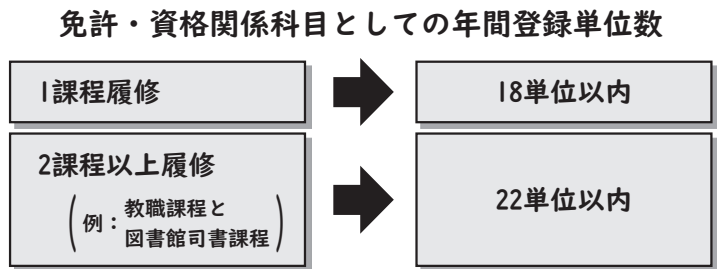
免許資格課程の履修にあたっては、各学部の卒業に必要な単位に加え、各免許資格課程で定められた所要単位を修得しなければなりません。また、授業だけでなく、準備学習や復習など授業時間外の学習の重要性を考慮したうえで、所属学部および免許資格の登録制限単位の範囲内で、1年次から計画的に履修することが要求されます。

教員免許や図書館司書、学校図書館司書教諭、博物館学芸員の資格取得に履修が必要な科目を各年次の最高登録単位数とは別枠で履修することができます。この場合、『免許・資格関係科目』として登録します。科目登録時に登録コードの種別欄に「M」を付けて登録してください（免許資格に関する「自由科目」にも「M」を付けて登録できます）。ただし、『免許・資格関係科目』として登録した場合は、卒業単位には算入されません。また、社会福祉士、精神保健福祉士等の資格取得を目的とした「M登録」はできません。

免許資格関係科目の登録種別欄で「M」を選択して登録（M登録）するには、履修を希望する免許資格課程の「仮登録（一般登録期間に学修支援システム：DUETにて可能）」もしくは「課程登録（説明会出席等の所定手続が必要）」を必ず行わなければなりません。手続方法は免許資格課程や年次によって異なるので免許資格課程センターの掲示で確認を行ってください。

「仮登録」もしくは「課程登録」を行った課程で定められている科目に限りM登録を行うことが可能となります。「仮登録」もしくは「課程登録」が完了していない場合、M登録することはできず登録エラーとなるので注意してください。

免許・資格関係科目として1年間に登録できる最高登録単位数は、各年次の年間最高登録単位数とは別に、1課程では18単位、2課程以上の場合には22単位です。



なお、各学科の必修科目、選択科目として履修した場合でも、免許・資格の取得には有効です。卒業に必要な単位として算入される科目との違いは下表のとおりです。

**科目群の性格**

	必修科目 選択科目 I・II	自由科目	免許・資格関係科目 として登録した科目
卒業単位に算入	YES	NO	NO
GPAに算入	YES	NO	NO
免許・資格に有効	YES	YES	YES
年間の最高登録単位数に入るか	YES	YES	NO <small>ただし上記の 単位数まで</small>

・ 免許・資格関係科目についての詳細は、『免許・資格関係履修要項』を参照のこと。

● 日本語・日本文化教育科目

日本語・日本文化教育科目は、外国人留学生が一日も早く本学での生活に慣れ、学習研究の実をあげることができるように、また日本語・日本文化を深く学び、日本での学習研究を生きたものにする事ができるように設置され、その履修は外国人留学生に限ります。

## ●全学共通教養教育科目

全学共通教養教育科目とは、すべての学部学生を対象とした共通の教養教育カリキュラムのことで、幅広い学問分野において充実した多くの科目を開設しており、本学の建学の精神である「良心教育」を「キリスト教主義」、「自由主義（自治自立の精神）」、「国際主義」という3つの教育理念に基づき、リベラルアーツ教育の伝統を受け継ぎながら現代において展開しています。そして、教養教育をつうじて設立者新島襄が願う、良心と自治自立の精神に満ちた、国際社会に貢献できる人物を多く輩出したいと考えています。

全学共通教養教育科目には「科目群」と「科目」というグループ分けがあります。

「科目群」には「同志社科目群」、「キャリア形成支援科目群」、「国際教養科目群」の3つがあり、それぞれ、全学共通教養教育科目の中で「建学の精神、新島襄、キリスト教」、「自己形成、キャリア形成」、「異文化理解、外国語」に関連する科目をピックアップしてわかりやすくまとめ、体系的に履修することができるようにしたものです。

「科目」は、全学共通教養教育科目のすべての科目を特性や分野ごとに「〇〇科目」という名称でグループ分けしたものです。

※詳細は全学共通教養教育科目履修要項を参照のこと。

## ●プロジェクト科目（社会学部では選択科目Ⅱに設置）

「プロジェクト科目」は、新しい授業スタイルの科目です。教員が知識を伝授する座学の講義スタイルとは異なり、学生自らが構想・計画をし、ディスカッションを重ねながら、行動するという、実践型・参加型スタイルの授業です。企業や地域社会の方々から提案されたテーマをもとに、現場の生きた知恵や技術、そしてマネジメント・サイクルを学び、プロジェクトの立ち上げから完成までの一連のプロセスに主体的に関わりながら、実践的な問題発見・解決能力—社会を生き抜く力—を身に付けます。この科目は、現場の第一線で働く社会経験豊かな方々と本学の専任教員によって運営されるのが特長です。

なお、この科目は学外での活動も多く想定されますので、通常の科目とは違い、時間割や活動場所などいろいろな制約があります。しかし、この科目で培われたスキルは、今後かけがえのない財産となるはずです。

※授業が不定期で行われる場合があります。また、学外での活動費用（交通費、施設利用料他）は自己負担となりますので、登録の際に各プロジェクトの活動内容を確認したうえで、登録してください。

※1年次生は、秋学期科目のみ登録できます。

※先行登録科目となりますので、所定の手続きが必要です。登録手続きや開講される科目の情報については、履修要項・登録要領やシラバス、および掲示板や下記のホームページでご確認ください。

同志社大学プロジェクト科目 <https://pbs.doshisha.ac.jp/>

## ●特色ある社会学部の履修制度

### ●副専攻制度

社会学部では、学生の学びたいという意欲をサポートし、柔軟な思考と広い視野を身に付けるために、2つの副専攻制度を導入しています。

各自の興味関心に応じて所属学科以外の分野などの副専攻科目群を選択し、複眼的で柔軟な視野から現代社会を分析し、それに対応できる能力を養うことを目指します。

学部内の他学科主要科目を並行して受講する副専攻に加えて、「国際社会」「社会心理」「ジェンダー」の3つは、横断的に組み立てられる副専攻で、構造化されるように指定された科目群を受講します。これらの副専攻を修了した場合、卒業時に修了証明を発行します。

・詳細はP.117以降に掲載しています。

### ●国際専修コース

社会学部では、「国際専修コース」を開設しています。このコースでは、所属学科設置科目の履修を基本としつつも、国際教育インスティテュート（ILA）国際教養コースの留学生と一緒に『国際教育インスティテュート科目』（全て英語による授業）を履修することができます。

## ●学部共通のカリキュラム

社会学部の学部共通カリキュラムは、全学共通教養教育科目（外国語教育科目を含む）と、学部共通科目の2つの科目群で構成されています。

大学での学問の基本となる教養教育、外国語教育、情報リテラシーに力を入れているのは、同志社大学の全学部に通ずる特色です。導入科目に属する「ファーストイヤーセミナー」では、大学や学部での学問のベースとなる力をしっかりと身に付けます。

同じく導入科目の「学部共通科目」は、専門科目を学ぶための出発点となる科目です。現代社会論、社会問題論、マス・コミュニケーション論、現代社会と労働、多文化共生社会と教育文化といった、各学科のベースとなる科目を網羅しています。

「現代社会論」では、家族、学校、企業、地域など人間が集まっている状態を構造的に理解する手がかりを示します。「社会問題論」では、“社会の底辺に向かう志”を見失うことなく、現実の社会問題を見つめる態度と方法を実践的に示します。「マス・コミュニケーション論」では、多様なメディアの現状と問題を取り上げ、その社会的役割、情報の読み方、発信の仕方などの原理的、実際的の方向を示します。「現代社会と労働」では、仕事の態度や能力、就職活動や雇用などの実際問題に向かう学問を示します。「多文化共生社会と教育文化」では、人間形成の意義と日本における新しい流れと、国際的な動向と多様な文化を取り込む教育の役割を示します。

これらの学部共通科目は、副専攻を履修するときにも有効です。



# 成績評価と単位

～成績評価はGPA（Grade Point Average）制度によって行われます。

## ●GPA制度とは

履修した科目の成績は科目ごとに5段階〔A・B・C・D・F〕で評価されます。また、科目ごとの評価とは別に、履修した科目全体の評点平均値はGPAとして算出され、在学中の履修成績として成績原簿などに記載されます。

なお、「F」評価を得た科目は単位の修得が認められません。

### 〈GPAの判定基準〉

評価	評点	判定内容
A	4.0	特に優れた成績を示した
B	3.0	優れた成績を示した
C	2.0	妥当と認められる成績を示した
D	1.0	合格と認められる最低限度の成績を示した
F	0.0	合格と認められるに足る成績を示さなかった

上記段階評価以外の評価は、「合格」「不合格」「認定」となります。

「自由科目」はGPAには算入されません。

### 〈GPAの算出方法〉

$$\frac{\text{A} \times 4.0 + \text{B} \times 3.0 + \text{C} \times 2.0 + \text{D} \times 1.0 + \text{F} \times 0.0}{\text{A} + \text{B} + \text{C} + \text{D} + \text{F}}$$

（A～FはA～Fの評価が付いた科目の単位数の合計）

**F評価科目もGPAに算入されますよ！**

## F評価科目の書き換え

GPA制度ではF評価科目の成績も含めて、1単位あたりの評点平均値=GPA（Grade Point Average）を算出します。なおF評価科目を再履修してD以上の評価を得た場合、GPAは最後に付いたF評価のみ新たな評価に書き換えて算出されます。

例1) A科目を2022年度に履修してF評価であった。2023年度にA科目を再履修してC評価を得たときの成績は？

→ 2022年度の成績が書き換えられ2023年度のC評価が付く。

A科目評価 GPA算入

2022年度 F × (2023年度のC評価によって書き換えられる)

2023年度 C ○

例2) A科目を2022年度に履修してF評価であった。2023年度にA科目を再履修してまたF評価であった。2024年度にA科目を再履修してB評価を得たときの成績は？

→ 2022年度のF評価が書き換えられなくなり、F評価として確定する。2023年度のF評価（最後についたF評価）は2024年度のB評価に書き換えられる。

A科目評価 GPA算入

2022年度 F ○ (2023年度のF評価によってFが確定)

2023年度 F × (2024年度のB評価によって書き換えられる)

2024年度 B ○



## ●GPAに算入されない科目

### 単位互換科目、単位認定科目

同志社女子大学や大学コンソーシアム京都の単位互換制度や早稲田大学学部交流生制度、在学留学制度などによって履修した単位はA・B・C…評価ではなく、「合格」「不合格」「認定」によって評価されます。これらの評価については評点の算出を行わず、GPA算出の対象にはなりません。

### 合格／不合格評価の科目

#### 【2022年度以降生】

「教職実践演習（中・高）」、「データサイエンス概論」

→ 合格／不合格科目は4単位までしか卒業必要単位数に算入されません。

#### 【2021年度以前生】

「Intensive Courses for TOEFL (Practice)」、「Intensive Courses for TOEFL (Tutorial)」、「教職実践演習（中・高）」、「データサイエンス概論」

→ 合格／不合格科目は6単位までしか卒業必要単位数に算入されません。

### 自由科目

#### ①「自由科目」群として設置される科目

「単位を修得しても卒業単位数に算入されない科目」を自由科目といいます。同時に自由科目の評価は、GPAにも算入されません。『履修要項』に「自由科目群」として定められていますので、登録履修の際によく確認をして登録してください。なお、自由科目として登録する単位数は、1年間の登録制限単位数に含まれます。

#### ②自己申告による「自由科目」

「履修をしたいが、GPAの対象としたくない」ような場合、科目登録時に、登録コードに「Z」の記号を付与すると「自由科目」として履修することができます。ただし、①と同様、自由科目として登録履修した科目の単位は、卒業必要単位として認められませんので注意してください。また、1年間の登録制限単位数に含まれます。

## ●その他の制度

### ●追試験制度

学部学生（科目等履修生を含む）の全年次生を対象として病気またはやむを得ない事由により、春学期および秋学期の終りに実施される定期試験、ならびに臨時試験（中間テスト等）を受験できない場合、追試験の申請を行うことができます。対象者は定められた期間に事務室に申し出てください。

### ●成績評価結果の公表

各学部・研究科が定める科目を除き、授業クラス毎の平均点や、評点の分布を大学ホームページ上でシラバス等とリンクして公表します。

### ●クレーム・コミッティ制度

科目担当者との直接的なコミュニケーションでは解決できない授業内容や授業方法に関する改善の要望がある場合は、社会学部事務室に相談してください。学部・研究科で相談の内容を確認後、必要に応じて各学部等のクレーム・コミッティが事実関係を調査し、クレームに関わる一連の対応について回答します。なお、いかなる場合であっても、相談者の学生IDや氏名が科目担当者に明かされることはなく、また相談によって決して不利益を被ることはありません。

# 開講科目一覧表の見方

## 登録コード

科目を特定する「科目コード」とクラスを特定する「クラスコード」で構成されています。クラスコードが明記されている科目は、科目登録の際、両方のコードを正しく記入してください（登録コードが記載されていない科目については、次年度以降に開講します）。

## 科目名・クラス

○で囲んだ数字はクラスを示します。

科目名が同じで、クラス番号が違う科目は特別に認められている科目を除いて、2クラス以上履修することはできません。

## 期間・時間

授業の開講される期間と週時間を表します。週時間は1講時分（90分）を2時間とします。

例)

春2：春学期に開講。週2時間（1講時）

秋4：秋学期に開講。週4時間（2講時）

春秋2：春学期～秋学期（通年）に開講。週2時間（1講時）

春集中：春学期に集中講義方式で開講。

秋集中：秋学期に集中講義方式で開講。

集中：講義が行われない科目を含む。

## 履修年次

履修ができる学年を示します。

例) 2～：2年次以上で履修できる科目です。

2：2年次で履修すべき科目です。

## 他学部生履修可否

可：他学部、他学科の学生も受講できる科目

※可：受講できる学部・学科が限定される科目

不可：他学部、他学科の学生は受講できない科目

※：欄外の注記のとおりとする科目